

# 令和7年度 研究基本方針

令和7年5月8日  
京都市立稲荷小学校  
研究部

## Ⅰ 研究主題

自分の思いや考えを伝え合い、つながり合う子どもの育成

～あたたかい稲荷校になるために～

## 2 主題設定の理由

本校は昨年度まで、「道德の時間」および「特別の教科 道德」の研究を10年間行ってきた。道德的価値についての理解は十分であったが、「道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」ことが課題であったために、自分事として捉え、自己の生き方について考えを深めるためにも、授業における発問の精選や教材の提示法や学習形態の在り方を吟味し、1時間1時間の道德の授業を練り上げることを研究の柱としてきた。自分の考えと友達の考えとを比較し、今まで考えもしなかったような気づきのできる学習場面を設定すること、そして対話を通して子ども達同士がお互いに交流すること、学び合いを通して自分の考えをより一層深め、これからの自分に生かしていくような学習場面を設定することが、道德的価値についての理解にとどまっているという課題を解決する鍵を握っているのではないだろうかと考え、研究を行ってきた。10年間研究をしてきた成果として、道德的な判断力や実践力がついてきたことが、研究の振り返りからも明らかになったため、もう一歩踏み出すために、今まで研究で培ってきたことを生かし、道德から特別活動に領域を変え、研究に取り組んでいきたい。

特別活動は、「道德科の授業で学んだ道德的価値の理解及びそれに基づいた自己の生き方についての考えを、よりよい学級や学校の生活と人間関係を築こうとする実践的な活動や、キャリア形成と自己実現に向けた活動の中で実際に言動に表すとともに、集団の一員としてのよりよい生き方についての考えを深めたり、身に付けたりする場や機会でもある。（小学校学習指導要領解説 特別活動編）」ことから分かるように、道德の時間では、道德的価値の自覚を図り、道德的実践や道德的行為につながる道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成し、様々な集団活動や体験的な活動が行われる特別活動には、多くの道德的実践・道德的行為を行う機会と場があるという、道德と特別活動は両輪の関係といえる。また、道德科も学級活動も話し合いを通して学ぶことを基本としているが、道德科は一人ひとりに着目して道德性を目指す「個の視点」とすると、学級活動では、集団決議をしてその決められたことに則って行動する「集団の視点」があり、異なる点もあるが、どちらにしても、関わり合って教育的学びを共有しているといえる。

また、本校の実態から、

- ① 指示されたことはその通りに行おうとする反面、怒られることを恐れて一歩踏み出せなかったり、何をすればよいか分からず、指示待ちになったりしている。
- ② 様々なことに興味や関心をもつことができるという長所が見られる反面、自分で考え判断して行動したり、目標を立て、見通しをもって取り組んだりすることは、苦手。

という、課題が見られる。児童が学級の友達と協働して活動したり、学年や学級を超えた様々な集団の中で、試行錯誤しながら進んで活動したり経験を積んだりすることにより、集団の一員としての自覚や自己の生き方についてのよりよい認識を深めさせられたらと考える。また特別活動全般を充実させることにより、「立ち向かう課題を解決しながら協働して生活しようとする自主的、実践的な態度が身につく、支持的な学級集団を築き上げること」へつながることを目指して、これから研究に取り組んでいきたい。

研究1年目の今年度は、個から集団へ、そして集団を育てて個が生きる学級活動を目指す手立てを考える1年としたい。今年度は、特別活動についての理論研修を重点的に進め、研究主題「自分の思いや考えを伝え合い、つながり合う子どもの育成」の実現のため、まずは子どもたちが協働して学習し、他者との合意形成力を育てることを目指して、学級活動(1)の話し合い活動に焦点をあて、取り組んでいきたい。話し合い活動で合意形成が図れるようになるということは、対話や議論を通じて、自分の考えを根拠と共に伝えるだけでなく、他者の考えを理解したり、自分の考えを広げたり深めたり、集団としての考えを発展させたり、他者への思いやりをもって色々な人と協働したりしていくことができる子の育成につながり、本校がめざす「あたたかい稲荷校をめざして」の実現に近づくのではないかと考え、本テーマを設定した。

### 3 研究の仮説

特別活動における視点、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」はそれぞれが相互に関わり合っていて、明確に区別されるものではないため、今年度の研究の方向性としては、どれか1つにフォーカスして進めるのではなく、学級の実態に合わせて個々の話し合い活動においてどの視点にフォーカスするのかを考えて進めて行く。

#### 研究仮説

いろいろな人とのかかわりの中で、自分たちが生活していることを感じ、子ども達にとって最も身近な学級という集団(社会)の中で、自分の考えを積極的に表現したり、友達の考えを受けとめたりする経験を積み重ねることで、自分の思いを表現し、伝えようとする意欲が高まるとともに、生活上の集団や個人の問題に気づき、みんなでなければ解決できない、学級活動での活動経験が、学校全体での活動や児童会活動に向けての自信となるばかりでなく、学級での係活動や当番活動の経験は児童にとっては存在感や自己有用感・効力感を直接的に感じられるよい機会である。学級活動(1)で話し合うことを積み重ねることで、学校の生活をよりよくしようという気持ちが育ち、それがあたたかい稲荷校へと繋がっていくのではないかと考える。また、生徒指導目標「互いに認め合い、自分で考え、自主的に活動する子どもの育成」における重点目標「協働的な活動を通して、社会性を身につけ、互いに喜び合える学級づくり」にも繋がっていくのではないかと考える。



### 《研究を進めていく上での大切にしていきたい視点》(学級活動編)

- ① 学級活動のねらいや意義の示し方の工夫
  - ・学級活動のねらいや意義を明確に示す。
- ② 話し合い活動を充実させるための工夫(思考の可視化・操作化・構造化の工夫)
  - ・視覚的に活動を把握することのできる工夫をする。(賛成反対マーク・小黒板・短冊・思考ツール)
- ③ 評価や振り返りを積み重ねることの工夫
  - ・活動を振り返ること、自分の成長を実感し、意欲的に次の活動に向かうことができる。

## 4 研究の取組

研究1年目であることから、今年度は理論研修に重きをおいて進めるが、研究授業に当たらずとも各学級で積極的に話し合い活動を進めてほしい。この経験を通して、指導者側も「特別活動」についての理解が深まり、指導力が向上するのではないかと考える。

	研究の取組の内容	学力向上の取組の内容
4月	部会 主事との打ち合わせ	
5月	8日(木) 主事の講義(理論研修①) 研究基本方針提案	
6月	19日(木) 研究授業①中部学級(学活1) 事後研と理論研修②	
7月	30日(水) 午後 授業実践力向上講座(特活) (総合教育センターにて)	第1回ノート検定
8月	20日(水) 夏季研修 理論研修③	
9月	5日(金) 理論研修④ 16:00～	
10月 道徳教育 推進月間		
11月		
12月		第2回ノート検定
1月	20日(火) 理論研修⑤	
2月	5日(木) 研究授業②荻野学級(学活1) 事後研と理論研修⑥ 26日(木) 理論研修⑦	
3月	来年度の研究に向けての振り返り	

今年度は、4～6年生対象に、ノート検定とは別に、自主勉ノートグランプリを実施できたら・・・(学力向上から提案予定。)

※8月20日までに、個々でスマートポータル→教職員向け研修コンテンツ→教科等理論研修会～授業づくりのスタートのために～[小学校]「特別活動編」を視聴しておいてください。

## 5 具体的な取組

### ① 特別活動についての理論研修（年7回）

### ② 子どもたちが意欲的協働的に話し合うための手立てについての研究

- ・教室の環境整備
- ・司会グループの原稿づくり
- ・話し合いにおける短冊づくり
- ・学級会ノートの作成

### ③ 家庭・地域への発信

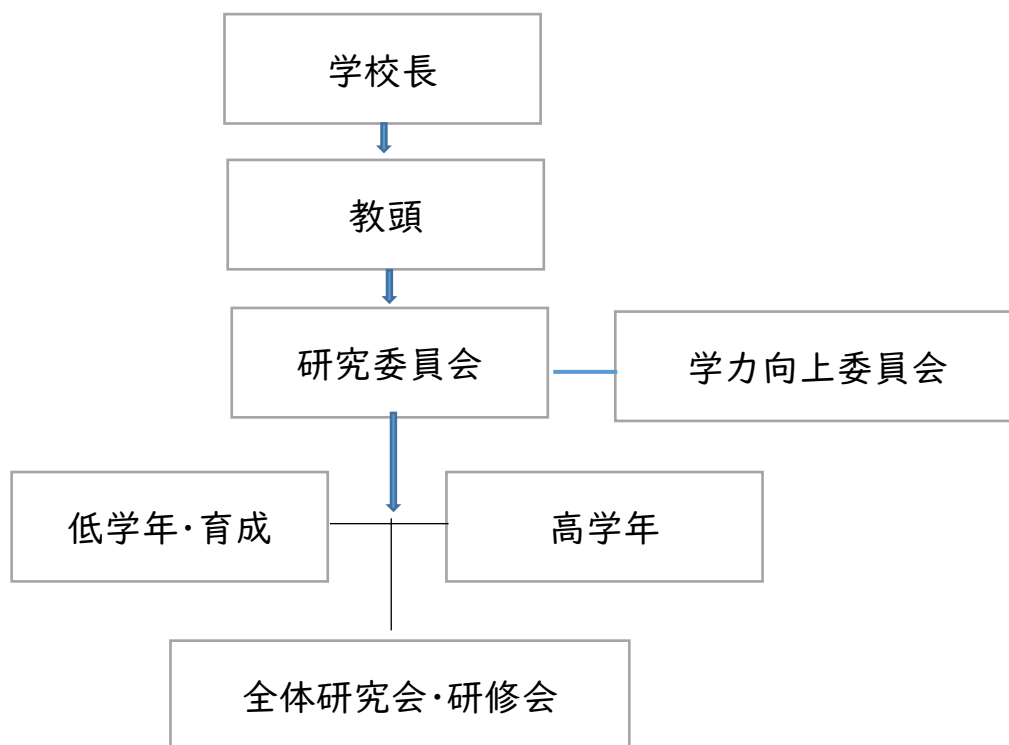
- ・学級懇談会・学級通信・HPでの取り組みの発信

## 6 研究組織

- ・各学年部の話し合いには7年が適宜入る。

低学年・育成部（1～3年・ろ組）…荻野・児島・中部・兵頭・本田・藤岡・高橋・教頭

高学年部（4～6年） …久保田・松崎・増田・学校長・教務主任・万木



## 低学年・育成 高学年

### 学年部の目指す子ども像（案）

低・育	<p><b>話し合い</b>：友達の意見がしっかり聞け、自分の意見もしっかり言える子</p> <p><b>実践</b>：自分たちで決めた事に、友達と力を合わせて一緒に取り組み、仲良く進んで活動する子</p>
高	<p><b>話し合い</b>：違う考えについてもしっかりと聞き、受け止め、理由をつけて自分の意見を述べ、学級全体のことを考えて話し合い、互いが納得できる結論を導き出すことができる子</p> <p><b>実践</b>：自分たちで決めたことに、自分の役割に責任を持ちながら取り組み、互いに協力して、意欲的に活動することができる子</p>

（案）なので、各学年部で相談してもらい、目指す子ども像を決定してください。

### ＜参考＞特別活動の目標及び学級活動の目標

#### （特別活動の目標（全体目標））

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- （１） 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- （２） 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- （３） 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

#### （学級活動の目標）

学級や学校での生活をよりよくするための課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第Ⅰの目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

#### ＜参考文献＞

- ・小学校学習指導要領解説「特別活動編」，東京書籍，2018
- ・新富康央他「生きる力を育む特別活動」，ミネルヴァ書房，2020，